

平和な日本とアジアめざす大きな流れを 首都・東京から

「2012年日本平和大会 in 東京」成功のよびかけ

2012年8月29日 2012年日本平和大会実行委員会

2012年日本平和大会 in 東京（11月23 - 25日）があと2カ月余に迫ってきました。

「平和な日本とアジアめざす大きな流れを 首都・東京から — 米軍基地も軍事同盟もない憲法の輝く日本めざして」をテーマに開かれるこの大会にむけ、草の根からの運動を広げ、地域・職場・学園から多数の代表を送り出すことをよびかけます。

野田政権は、消費税の増税と社会保障改悪、原発再稼働、TPP参加推進、沖縄・普天間基地への欠陥機オスプレイの配備推進など、悪政の数々をすすめています。これに対し、日本列島津々浦々で、国民の怒りがわきおこっています。首都・東京で開かれる2012年日本平和大会は、こうした日本の現状に疑問や憤りをもつ人々とともに、異常な日米関係をただし、米軍基地も、日米軍事同盟もない、平和で安全な日本をつくる展望について、大いに語りあい、学び、交流しあう大会です。

とりわけ、「世界一危険な基地」普天間基地へのオスプレイの配備と全国での低空飛行訓練ごり押しは、沖縄の県民ぐるみの反対運動と全国の広範な自治体・住民の反対の声をかたつない規模でよびおこしています。このなかで、「日本はアメリカの属国なのか」「日米安保は見直すべき」の声は、広範な人々に広がっています。

また、野田政権は、アメリカ政府の「軍事的役割の拡大を」の要求にこたえ、憲法を変えて集団的自衛権を行使できるようにする動きを強め、テニアンでの米海兵隊と陸上自衛隊との上陸演習など、危険な米軍・自衛隊の一体化をすすめています。中国や韓国との領土問題をめぐっても、軍事態勢を強化する動きを強めています。これはいたずらに緊張を高め、領土問題の解決も困難にする道です。領土問題は、侵略戦争への真摯な反省の上に、歴史的事実と国際法にもとづき、冷静な話し合いで平和的に解決する以外にありません。

アメリカの要求も背景にした原発再稼働、米軍への「思いやり予算」や軍事費を聖域にした消費税増税、アメリカ資本のために日本の農業と経済を破壊するTPP参加推進 — こうした問題の根っこに日米安保体制があることも、いっそう鮮明になってきました。

こうしたなかで、様々な要求や関心、運動と結び、アメリカいいなりの政治を変え、日米安保条約廃棄の世論を広げることが、いまこそ求められています。今年の大会には、20年前に米軍基地を撤去したフィリピンの代表をはじめ、アメリカ、韓国、グアムの代表も参加し、「平和のアジア太平洋をどうつくるか？」をテーマに大規模な国際シンポジウムも開催します。武力の不行使、紛争の平和的解決を原則に積極的な平和外交をすすめるASEAN（東南アジア諸国連合）の政策についての、外交官の講演も予定されています。これもふくめ大会は、分科会、フィールドワーク、全体交流集会、横田基地行動などを通じて、軍事同盟をなくし、平和なアジアを実現する展望をいきいきと示すものです。

大会の開催地・東京では、原発再稼働反対、原発ゼロを求める人々が首相官邸前を毎週埋め尽くし、TPP参加反対、貧困なくせの官邸前行動もはじまるなど、政治を変えたいとの国民の願いが力強く示されています。米軍基地の問題でも、横田基地の機能強化やオスプレイの配備に反対する運動が発展してきています。この大会に向け、全国で平和・くらし・民主主義を守る運動をさらに大きく発展させ、激動の情勢にふさわしい過去最大規模の参加者で、大会を成功させましょう。そして、米軍基地も軍事同盟もない憲法の輝く日本を実現する、大きなうねりをつくりだしましょう。